

# 荒神と神木

生物多様性研究分科会 宇野 真一

## 1. はじめに

平成 26 年度は意宇川流域の“荒神・神社にある御神木”を見て廻った。

社寺林や御神木はその土地の自然植生はもちろん、歴史・生活・信仰といった地域文化とも密接に関わっており、ある意味、人と自然との繋がりを象徴した存在ではないかという発想である。

調査を始める前は、限られたエリア内（意宇川流域）でも立地条件や主祭神などの指標によって傾向が見えてくるのではないかとの期待があったが、現実には関連性が見いだせなかった。

## 2. 意宇川流域の御神木

調査対象と御神木は以下のとおり。なお、神社の御神木ではなく境内に合祀されている荒神を対象としているものは「荒神」と表記している。

表 1 調査対象と神木一覧

調査対象	荒神	神木	住所
阿太加夜神社	荒神	タブノキ×②	松江市東出雲町出雲郷 587
揖夜神社	荒神	エノキ・ネズミモチ・スタジイ・サワラ	松江市東出雲町揖屋字宮山 2229
磐坂神社		スタジイ	松江市八雲町西岩坂 946
熊野大社	荒神	モチノキ・スタジイ・サワラ・カツラ	松江市八雲町熊野 2451
志多備神社	荒神	スタジイ・カゴノキ	松江市八雲町西岩坂 桑並
六所神社	荒神	タブノキ・スキ・チシャノキ・スタジイ	松江市大草町 496
真名井神社		スタジイ・イヌマキ・ケヤキ	松江市山代町字伊弉諾 84
山代神社		ナギ	松江市古志原町 73
山代町荒神	荒神	スタジイ	松江市山代町
意宇の杜		タブノキ	松江市竹矢町 494

Wikipediaによると、荒神信仰は屋内に祀られる「三宝荒神」と屋外に祀られる「地荒神」があり、「地荒神」には“山の神”“屋敷神”“氏神”“村落神”の性格もあって集落や同族ごとに樹木や塚のようなものを荒神と呼んでいる場合もあるようで、今回の調査対象もこのケースに該当しそうである。

また牛頭天王のスサノオ信仰との習合も見られるとのことだが、今回の調査からその可能性まで探ることは難しい。

「荒神」の御神木には藁蛇や幣を奉納したものが多い。圧倒的に迫力があるのは阿太加夜神社を始め、いくつかを下に示す。



図 1 阿太加夜神社内の荒神



図 2 藁蛇の頭部



図 3 揖屋神社内の荒神



図 4 松江市山代町の荒神



図 5 志多備神社内の荒神



図 6 六所神社内の荒神

### 3. 他地域の荒神と神木（山陰民俗叢書から）

山陰民俗叢書6「家の神・村の神」（平成10年発行・山陰民俗学会編集・（株）島根日日新聞社発行）の中に「荒神」の神木を調査した論文があったので、そのデータを示す。

表2 出雲能義郡の荒神（井塚忠氏の論文から抜粋・改編）

地区	戸数	神木	奉納物
横手	14	檜	酒・小豆餅・白餅
後ヶ市	16	檜	米・酒・小豆飯
川原	35	榊	米・酒・小豆飯
平野・乙見	24	桧	酒・オゴク・米
本町	32	杉	米・酒・白餅
中曾根	36	？	？
西ノ谷	33	榊・檜・杉	米・酒・白餅
根宇・川原	20	杉・檜	酒・白餅・米・オゴク
飯田	19	榊	赤飯・白餅
上り原	23	タライの木	小豆飯・白餅・酒
上金原	9	榊	小豆飯・白餅
下布部	29	杉	米・白餅

\*オゴク（塩気の無い小豆飯）

\*タライの木（モチノキ科のタライ？）

表3 能義郡荒島村の荒神（島田成矩氏の論文より抜粋・改編）

地区	戸数	神木	奉納物
荒島	382	松・楠	藁蛇・幣・シボ <sup>①</sup> ・酒・醴
川原	33	松・栗	藁蛇・幣・酒
上荒島	53	松・栗	幣・酒
論田	11	松	幣・醴
奥日白	23	松・榊・トングリ	藁蛇・幣
久白	42	椎	藁蛇・幣
西赤江	21	ナシ	幣・醴
山根	26	榊・桜・椎椿・高野槇	幣・醴・シトギ <sup>②</sup>
下日白	34	椿	藁蛇・幣

\*シボ

\*シトギ（「桑」神前に供える餅、米粉を清水でこねて長卵形としたもの）

先ほどの表1も併せて概観してみると、各エリアで御神木となる木の樹種が異なっていることがわかる。御神木に良く選ばれている樹種は各エリアとも2～3種類、いずれも他のエリアとは重複していない。

- ① 意宇川流域の神木    スダジイ 7カ所、タブノキ 3ヶ所  
    いずれかを含む 9/10カ所・・・90%
- ② 能義郡の神木            カシ 4カ所、サキ 4カ所、スギ 4カ所  
    いずれかを含む 9/11カ所・・・82%
- ③ 荒島村の荒神            マツ 5カ所、シイ類 4カ所  
    いずれかを含む 6/9カ所・・・67%

#### 4. さいごに

樹種の違いが単に自然条件によるものなのか、あるいは文化的要素も加味された結果なのか今回の調査から結論は導き出せないが、もう少し御神木の分布？状況を知るには、もっと広域からの視点が必要である。

2日間の調査で訪れた8カ所の神社はいずれも出雲国風土記に記載のある社であった。位置が変わったものもあるが1300年前の神社が当たり前に現存しそれを特別なことと日常感じることはない。

個人的には「荒神」の藁蛇とヤマタノオロチの関係にも興味が湧くが、つくづく（広義の）出雲というのは稀有な風土と思う。



図7 意宇の杜  
 (今回最大の疑問 何故ここに?)